

西洋建築史第5回

中世2 - カテドラルの時代

中島 智章

序.ヨーロッパの封建制

フランク王国分割 各カロリング朝の断絶 諸侯(公、伯、副伯 + 大司教、司教)の勢威が増す

西フランク王国 カペー朝(987-1328):Hugue CAPETの頃は一地方勢力に過ぎなかったが… Philippe II, Louis IX
ロタリンギア(ロタールの国) ロレーヌ(ロートリンゲン)公国、フランシュ=コンテ(ブルグンド自由伯領)、イタリア諸侯国…

東フランク王国 選挙王政 Otto Iが神聖ローマ帝国皇帝に(962) しかし、近代まで領邦国家の集合体に過ぎず

教皇権の絶頂そして転落:Gregorius VIIとHeinrich IV(1077)、Innocentius IIIとJohn欠地王 Bonifatius VIII(1303)

修道院:6世紀のベネディクトゥス(モンテ=カッシーノ)=服従、清貧、貞潔 クリュニー修道院、フランチェスコ会などの発展

1.教会堂の種類

教会と教会堂 前者はキリスト教徒の共同体・宗教組織、後者はその礼拝のための建造物だが…

カトリック教会の位階:教皇(pape) 枢機卿(cardinal) 大司教(archevêque)と司教(évêque) 主任司祭(curé) 神父と牧師
司教座聖堂(cathédrale) 参事会聖堂(collégiale) 教区教会(église paroissiale) バジリカ聖堂(basilique)と大聖堂
邦語表記 現地語に近いカタカナ表記 聖ペテロ サン=ピエトロ(伊)、サン=ピエール(仏)、ザンクト=ペーター(独)など

2.ロマネスク建築

至福千年説の超克と石造ヴォールト建設術の復興 円筒ヴォールト、交差ヴォールト、ベイによる構成、ラテン十字形

1)フランスのロマネスク:アプス(内陣)を取り巻く放射状祭室、巡礼路に沿って点在、クリュニー修道院などの建築

サン=セルナン教会(トゥールーズ)、ラ=マドレーヌ教会(ヴェズレ)、サント=トリニテ教会(カン)、ダラム大聖堂(ノルマン式)

2)イタリアのロマネスク:基本的平面はバシリカ式を踏襲、柱頭の繊細な彫刻、鐘楼と円形の洗礼堂が独立に建てられる

サンタ=マリア=コスメディン教会(ローマ)、ピサ司教座聖堂、パルマ司教座聖堂、サンタンブロージオ教会(ミラノ)

3)ライン川沿いのロマネスク:二重祭室、菱形を組合せた屋根の尖塔 シュパイアー大聖堂、マリア=ラーハ修道院教会

シント=セルフアース大聖堂、聖母教会(ともにマーストリヒト)、サン=バルテルミー参事会聖堂(リエージュ)

都市の司教座聖堂などは後にほとんどゴシック様式で再建され、かろうじて地下祭室(クリプト)の形でみることができる

3.ゴシック建築

都市の栄光をになう司教座聖堂 尖頭アーチ、リブ・ヴォールト、フライング・バットレス 高度な切石・組積技術の下地

ルイ7世とスゲリウス(シュジェール) 王家の菩提サン=ドゥニ教会 スティンド・グラスと光 イル=ドゥ=フランス地方が本場

ノートル=ダム司教座聖堂(パリ)、ランス司教座聖堂、アミアン司教座聖堂、シャルトル司教座聖堂、ラン司教座聖堂

サン=セヴラン教会(以下、パリ)、サントゥスターシュ教会、サント=シャペル礼拝堂、ヴァンセンヌ城塞付属礼拝堂

「国際様式」 低地地方、ブリテン島諸国、独語圏諸国、伊諸国、イペリア、ホヘミア *rayonnant, flamboyant, fan vaulting

ノートル=ダム司教座聖堂(トゥルネ)、サント=ウォードリュ参事会聖堂(モンス)、サン=ジャック参聖(リエージュ)、シント=

ピーター参聖(ルーヴェン)、サン=ミシェル教会(ブリュッセル)、ノートル=ダム・デュ・サブロン(同)、シント=ロンパウツ大司教座

聖堂(メヘレン)、聖母司聖(アントワープ)、シント=バーフ司聖(ヘント)、ソールズベリ大聖堂、ウェストミンスター・アベイ(ロンドン)、

ケルソ大司聖、ウルム司聖、シュテファン・ドム(ヴィーン)、ミラノ大司聖、バルセロナ司聖、セビリア司聖、プラハ司教座聖堂

世俗建築 市庁舎や会館…教権、王権に対する都市の自治権の伸張(北伊・低地地方) Dogeのヴェネツィア共和国

ブルッヘ、ブリュッセル、ルーヴェン、モンスの市庁舎、イーペル羅紗会館、メルカンティ広場(ミラノ)、パドヴァの裁判所